

開創四百五十年記念事業

◆新伽藍建立工事のお知らせ◆

真光寺開創四百五十年記念事業の一つとして始まった整備工事も、平成十八年七月に土木工事が完了し、休む間もなく新伽藍建設工事へと引き継がれました。

先ずは平成十八年九月十八日に地鎮祭が執り行われ、米・塩・酒で土地を清め、参列者全員で工事の安全と無事を祈りました。

■仏式による地鎮祭  
新伽藍建設予定地にて安全を祈願しました。  
写真中央は導師を務められた岡本和幸住職、奥は故東長寺住職瀧澤和夫老師。



■鍬入れの儀  
岡本和幸住職による鍬入れの儀の様子。



ご参集頂いたのは、壇信徒総代高吉氏をはじめ、役員、建設委員の方々、また、四谷の東長寺からは故瀧澤和夫老師ならびに寺務長の安川氏、また、本工事に携わる設計・工事関係者約三十名の方々です。  
皆様には今暫くのご不自由をおかけ致しますが、ご理解ご協力の程お願い致します。

新伽藍は、山門、仏殿、庫院（客殿）、方丈、観音堂、庫裡から成り、それぞれ役割を持っています。

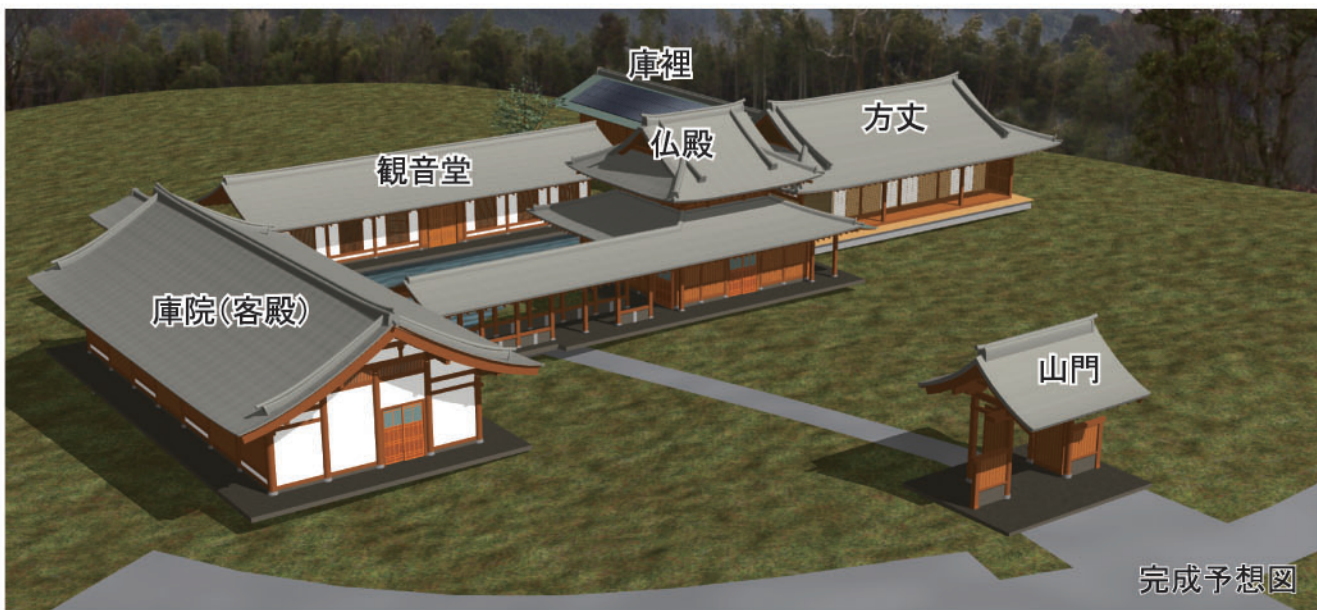
山門・真光寺の新しい伽藍空間へ誘います。

仏殿・葬儀や法要、坐禅などを執り行うお堂で、寺院の中心的な建物です。

庫院・皆さんの集会場で、法事の後席をおこなうことが出来ます。

方丈・畳敷きの建物で、法事の控え室として使用することが出来ます。

観音堂・縁の会会員の位牌堂です。



完成予想図